



# 花園下町人情ストーリー

～西成発！昭和文化遺産 靴と呉服と紙芝居と～

## ① 萩ノ茶屋

江戸時代、今宮戎神社近くの廣田神社門前に紅白2種類の萩を植えた萩ノ茶屋がありました。その支店が住吉街道(紀州街道)沿いに出て、それから当地域を「萩ノ茶屋」と呼ぶようになったといひます。その後、明治40年(1907)に南海鉄道が恵美須(現在の今宮戎)～天下茶屋間に新しく「萩ノ茶屋駅」を開業。萩ノ茶屋駅西側(現在の西成区花園北)は、かつて「西成区西萩町」と呼ばれ、「じゃりん子チエ」の漫画家・はるき悦巳の出身地です。同作の主人公・竹本チエの住んでいる「頓馬区西萩」のモデルになったといわれ、萩ノ茶屋駅舎やガード下の雰囲気は、同作に登場する「西萩駅」に非常によく似ています。現在、駅西側に花園北本通商店街、東側に萩ノ茶屋本通商店街があります。

## ② 甘党の店 福屋

親子2代、50年以上に渡って営業している団子屋です。透明な蜜に青海苔がかけられたみたらしだんごが有名です。このみたらしだんごは、寺田町の生野本通商店街の「亀や」、京阪の千林駅近くにある「亀屋」でも販売しています。3つを食べ比べるのも面白いかも。

## ③ 鶴見橋商店街

明治42年(1909)、津守に大日本紡績(現・ユニチカ)の工場が建設され、南海線や大阪市電といった交通機関が整備されると、商店が立ち並び始め、昭和4年(1929)に鶴見橋通総連合会が結成。商店街は従業員の通勤路、社交場となり、戦前は天満橋、心斎橋と並ぶ「大阪三橋」と称されるほど賑わいました。国道26号花園町付近から阪神高速道路15号堺線津守出入口付近まで、東西約1キロメートルに及ぶ商店街で、大阪市北区の天神橋筋商店街(約2.6キロメートル)、東京都品川区の戸越銀座商店街(約1.6キロメートル)に次ぐ、「日本で3番目に長い商店街」という人もいます。

## ④ 辻田菓子店

戦前より営業されている駄菓子屋です。大正時代のダンスホールだった建物を使用しています。この建物に魅せられた某画家が、畳2畳分に店舗の絵を描き、その絵は現在、ブルガリアの美術館に飾られているとか。

## ⑤ お好み焼き 芳月

65年以上営業の老舗お好み焼き屋です。外観、店内ともに下町情緒溢れる昭和レトロな雰囲気を醸し出しています。入口で販売されているアイスモナカも名物です。

## ⑥ イズミヤ花園店

和田源三郎(1897～1974)が大正10年(1921)にわずか7坪の店舗で「いずみや呉服店」を創業。源三郎は敬虔なクリスチャンで聖書の「ヤコブの泉」(私が与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る)から店名が名付けられました。また「商売の起源は物と物との交換よりはじまり、売手も買手も満足し合ったのがその起り、利益のため商売するのは本筋ではありません」といった言葉を残しています。昭和27年(1952)、衣料品販売を主とした「いづみや株式会社」を設立して昭和34年第2号店として尼崎に出店。昭和37年(1962)に欧米型のチェーンストア経営システム導入を目指す研究団体「ペガサスクラブ」が発足すると、イズミヤ専務・和田満治も参加。同クラブにはダイエーの中内功、イトーヨーカ堂の伊藤雅俊、岡田屋(現・イオン)の岡田卓也、セルフハトヤ(現・マイカル)の西端行雄などがいて、ほとんどが30代の若手経営者でしたが、その後、チェーンストア経営で大成功を収め、日本を代表する小売業者となっていきました。昭和54年(1979)に現在の社名に変更して、現在は近畿地方を中心に関東・中国・九州地方にまで店舗を展開しています。



## ⑦ サンスーク花園商店街

昭和17年(1942)に地下鉄四つ橋線の終着駅として「花園町駅」が完成。その付近に自然発生的に店舗が集まり、昭和20年(1945)に商店街組織となりました。平成12年(2000)に商店街活性化と国際交流を兼ねたプロジェクト「一商店街一運動」でインドネシア総領事館の応援を受け、その名残でインドネシアをテーマにした雑貨屋「てれまかし」があります。

## ⑧ 一富久

昭和32年(1957)開店。「ネギのせたこ焼き」発祥のお店と言われ、たこ焼きの上に青ネギを乗せ、特製の二倍酢(酢・ダシ・醤油)をかけて食べます。

## ⑨ 塩崎おとぎ紙芝居博物館

昭和30年(1955)設立。全国で唯一残る街頭紙芝居師団体「三邑会」の代表・塩崎源一郎・ゆう夫妻の自宅でした。紙芝居画は全て手書きで、世界に1枚しかない紙芝居原画が30万枚保存されており、現在でも紙芝居師が全国で活躍しています。入館には事前予約が必須です。

## ⑩ ロンドン製靴株式会社

昭和60年(1985)に設立。婦人靴の製造・輸入会社です。江戸時代、西成地区では牛馬の処理解体が行われていました。そうした歴史的背景を元に明治時代からは皮革産業が発展。昭和30年代には製靴メーカーが300軒を越えるほどの最盛期を迎えましたが、外国製品の進出や合成皮革の登場、機械化、職人の高齢化、後継者不足などの影響で現在は100軒以下まで減少しています。しかし現在でも婦人靴は日本最大の生産高を誇り、住宅地の細い路地に入れば、製甲ミシンの音や底付けハンマーの音が響いています。靴職人も1000名近くいると言われ、地域人口の約3割近くが靴関連の仕事に付いているといわれています。

## ⑪ 株式会社 ジャンクシオン

平成5年(1993)設立。オリジナル雑貨を販売されています。本来はショールームですが、金土日祝限定で小売もしています。

## ⑫ 花園町

地名の由来はよく判っていません。現在でも「津守」「今船駅」などが残っていますが、戦前の西成界隈には「海道」「甲岸」「入船」「曳船」など水や海を連想させるような地名が数多くありました。つまり古代・中世は西成は海辺に面した漁村だったわけですが、その後、陸地化して街道となって旅人たちが行き交うようになると、「萩ノ茶屋」「天神森」「橋」「松」「梅南」といった花や緑を連想させる地名などが生まれました。「花園」もそうした背景から誕生した地名かも知れません。大正9年(1920)に大阪市内の交通量増加の対応策として日本初の公営地下鉄建設が計画され、昭和17年(1942)、地下鉄四つ橋線の終着駅として「花園町駅」が建設されました。駅近く(徒歩約5分)には、西成名物の大衆演劇場「梅南座」「鈴成座」があります。

和田源三郎が「いずみや呉服屋」(現・イズミヤ)を創業し、漫画家・はるき悦巳が「じゃりん子チエ」を描き、日本で唯一の紙芝居の博物館「塩崎おとぎ紙芝居博物館」があるまち・花園町。また西成界隈は明治時代から皮革産業が発展し、現在でも婦人靴は日本最大の生産高を誇るとか。ほら、住宅街の細い路地に入れば、製甲ミシンのカタカタいう音や底付けハンマーのトントンいう音が響いてきませんか？昔懐かしい「昭和の大阪」を歩いてみましょう！